

E-JUST 派遣報告

～エジプト人の若者に希望を～

Victor Goulart

九州大学 准教授

エジプト日本科学技術大学 特任教授

平成22年7月20日

本報告の狙い

- EJUST－エジプト日本科学技術大学
(アレクサンドリア、エジプト)で行われた業務
とその実績報告になる
- その上に現地で把握した問題点を記して
今後の改善案のヒントにも貢献したい

発表手順

- E-JUST派遣について
 - スケジュール
 - 所属専攻
 - 業務と実績
- エジプト或いはE-JUSTで感じた魅力と課題
 - 業務上の環境、私生活他
- 教訓と提言

E-JUST派遣について

- 2010年(春学期)の派遣スケジュール
 - 1回目:1月20日~1月29日 (10日間)
 - 2回目:2月19日~6月30日 (144日間)
- EJUSTの所属専攻
 - Department of Electronics and Communication Engineering (ECE) - Adjunct Professor
- 業務や実績
 - 大学院教育
 - 講座: ECE504 - Advanced Digital Integrated Circuits を担当
 - その他: 支援講義、研究指導、相談相手、セミナー

ECE 504: Advanced Digital Integrated Circuits

講座目的と評価

- 講座目的
 - HWとSWを統合されたシステム(システムLSI)を作るために広い視野をもつ技術者が要求されている。本講座では要素技術を勉強し、プレゼンやコミュニケーション能力を鍛えながらグループプロジェクトを通して創造性、応用力、実践力を身に着ける
- 評価方法
 - Reports/assignments/ Projects/presentations: 60%
 - Mid-term exam: 10%
 - End of semester examination: 30%
- 今回JICAと九大の契約の関係で講座を作りながら講義していたので大変だったけど学生の状況に対して柔軟に対応できた
- 今後講義の内容をさらに充実し改善していきたい

業務と実績

- 支援講義、研究指導、相談相手、セミナー
 - **支援講義**は講義内容の理解水準とプレゼンテーションや議論できる能力を高めるために行った。(2ヶ月位で週2・3回)
 - 講座のプロジェクトに関するプロジェクト・ステータス・ミーティングで**PMの理解と知識**を深めるため(毎週一回)
 - **研究指導**はゼミと個別指導(マンツーマン)
 - ゼミは3月から毎週一回(英語勉強の関係で実施困難になった)
 - 学生と共に過ごす時間が多く、信頼性を得て自然に**相談相手**になってしまった。今でも相談を受けている
 - 来客者や教員が全学に対して公演(**セミナー**)を毎週火曜日に行う。※添付資料を参照下さい

エジプト或いはE-JUSTで感じた 魅力(+)と課題(-) (1)

- EJUSTという大学について
 - + Multidisciplinaryな環境で最高に面白い！共同研究にも成り立ち易いと期待（今回そんな余裕がなかったのが残念）
 - + 教官と学生の高い資質
- 学生について
 - + 礼儀正しくて元気が良い
 - + 熱心に勉強して、積極的に質問や議論に参加してくれるのでやりがいになる
 - 然し以前同じ上位成績と言ってもレベルが色々あり
 - 講座受講前にトレーニングが必要かも
- 専攻内(ECE)について
 - + 他教官との交流が出来て今後の共同研究も期待できる
 - 何回提案したが専攻会議が一回も開催されなかった
 - インフラが整っていない: ラボ、インターネット、Digital Libraryなど

エジプト或いはE-JUSTで感じた 魅力(+)と課題(-) (2)

- EJUST全体について
 - ± 「日本型」・「エジプト型」・「米国型」の大学運営 ??
 - 政府の関係と今後の方向性
 - 最終意思決定が不明確
 - 英語共通言語を実施されていない
 - 問題の逃げ場にならないように☺
 - 非計画的やり方が混乱を招く
 - 開校式典時や学生の面接プロセスの時も
 - ± 専攻の開設基準と在学中の学生の取扱い問題
 - 「未来の」研究にモノやお金を要求する動向。「現在の」問題解決に注入しないといけない
 - 奨学金の制約と学生の区別
 - 学生評価の仕方の自由がない: By-lawsが硬い
 - 学生の生活的、精神的サポート仕組みが必要 (*)

エジプト或いはE-JUSTで感じた 魅力(+)と課題(-) (3)

- EJUSTの認識
 - + EJUST教員が訪問した大学の入学応募者が多いので今後エジプトと日本にも宣伝する必要がある
 - 両国の学生の交流の活発化
- 学生を日本に送ることについて
 - 独立した大学を目指すべきなので基本的に「反対」
 - しかし研究目的に応じて「賛成」(機材や測定機器の関係で)
 - でも送ることはEJUSTの宣伝になってはいけない！
- 両政府外務関係
 - 観光VISAの問題: EJUSTの関係も不明確
- 現地の生活
 - + アレクサンドリアは綺麗な町で何でもあるので大した不便はない
 - が、時々アラビア語を話さないと不利になる(移動がストレスに)
 - 非常事態宣言中なのでたまに気になる

教訓と提言

- 最初段階 (**Pioneer**) で大希望プロジェクトに参加させて頂くのは大変勉強になるし感謝しておる。出来る限り今後も貢献していきたい！
- **日本型教育・運営**を体験させるためには派遣教員を更にエジプトに送る必要があると感じている。しかしながら現時点では短期派遣の効果は疑問に思う
- **大学全体のコミュニケーション** (学生、教員、両側関係者) を改善する必要がある。文化や言葉の問題もあるけどお互いの意思と賛成を計りながら計画性を導入する必要がある
- 最後に「将来の大学」ではなく「**今現在のEJUST**」を意識してアフリカ人の若者の厚い期待に答えて希望と可能性を広げていきたい

感謝

サポートグループ

– エジプト側（現地）

- 角田様、安達様、岡野様、奥本様（JICA専門家）と Mrs. Eiman（スタッフ）
- 松下先生、大川原先生、オリバー先生（東工大）と 岩田先生（早大）
- Ragab先生、El-Sharkawy先生を始めEJUSTの教員やスタッフ

– 日本側

- 後藤様（JICA人間開発部）
- 安浦副学長、吉田先生、村上先生、幸野様（九州大学）

大変お世話になりました！

ご清聴を有難うございます。